

2010年1月5日(日)朝10:10～

主の降誕節第2、コイノア等

1月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**わたしを受け入れる人**(40節)

聖書:マタイ 10章40～42節

<口語訳>

新約聖書16～ 頁

マタイ 10章40～42節

<新共同訳>

新約聖書18～ 頁

マタイ 10章40～42節

<新改訳第3版>

新約聖書19～ 頁

マタイ 10章40～42節

<塚本訳>

新約聖書96～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。

◇本日の**マタイ10:40～42**は、「**わたしを受け入れる人(40節)**」と、**御子イエス・キリスト様**が、ご自身の弟子たちに語られたように、**主の弟子として、如何に生きるかが問われています。**

⇒年末礼拝の時、弟子とは、「**十字架を背負って主に従う者(38)**」であることに気づかせていただきました。

⇒「**わたしを受け入れる人(40節)**」と、「**神の御子イエス・キリスト様**」が、弟子の生き方そのものが、**主に聴き従っているかどうかの基準**となるということです。

⇒しかも、「**主を背中に負う**」のではなく、「**主に背負われている者の姿**」を見ていただくことが、**主の弟子の役目**で、「**十字架を背負う**」のも、「**主に罪ゆるされた恵み・福音**」です。

本論；

◇本日、**マタイ書10章40～42節**から主の**使信**に**思い・心vous**をとめます。

◆**マタイ10章40～42節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、**天の父**に「**服従された**」ように、**御子イエス・キリスト様**に従い、**主の十字架の道・生き方をする姿**を見てもらうことが「**十字架を背負って主に従う者(38)**」にお求められていることなのです。

◇**40～42節**；塚本訳◆**迎える者への褒美**

「40 あなた達を迎える者は、わたしを迎えてくれるのであり、わたしを迎える者は、わたしを遣わされた方をお迎えするのである。

41 預言者を預言者として迎える者は、預言者と同じ褒美を戴き、義人を義人として迎える者は、義人と同じ褒美を戴くであろう。

42 また(わたしの)弟子としてこの一人の小さな者に一杯の冷たい水でも飲ませる者は、アーメン、わたしは言う、(天にて)その褒美にもれることはない。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**40～42節**；「あなた達を迎える者は、わたしを迎えてくれるのであり、わたしを迎える者は、わたしを遣わされた方をお迎えするのである(40)」、「預言者を預言者として迎える者は、預言者と同じ褒美を戴き、義人を義人として迎える者は、義人と同じ褒美を戴くであろう(41)」、「また(わたしの)弟子としてこの一人の小さな者に一杯の冷たい水でも飲ませる者は、アーメン、わたしは言う、(天にて)その褒美にもれることはない(42)」と、「歓迎して(迎えて)もらった人」が、「歓迎した人」に、「主からご褒美」をもらえる機会(きっかけ・契機)を提供する者にされると、主は仰せです。

⇒先週は、主が弟子たちを愛されるがゆえに、主の弟子に敵対する者には、剣を投げ込むと言われましたが、その反対に、主の弟子だということで、「歓迎(受け入れ)」される者には、「ご褒美(永遠のいのち・主の罪の赦しと救い)」が、提供されるというのです。

⇒主の弟子の立場から言えば、「誇る者は、主を誇れ」(I コリント1:31)です。パウロは、知恵がなく、無に等しい者を神は選ばれたと。

⇒①「あなた達を迎える者は、わたしを迎えてくれるのであり、わたしを迎える者は、わたしを遣わされた方をお迎えするのである(40)」と、**マタイ**は、神の前には、取るに足りないものを敢えて信仰の基準にして、主が受け入れて下さったかどうかの判定をしておられるのです。

⇒教会やキリスト者を無視する人がいたら、神はご自身を軽んじたと受け止められるのです。それだけに、無価値と自己評価していることを愚かと思わなくてはなりません。

⇒②「預言者を預言者として迎える者は、預言者と同じ褒美を戴き、義人を義人として迎える者は、義人と同じ褒美を戴くであろう」という評価も、主の評価であることが分かります。先の受けれが、**神の愛**を基準にしているのに対して、**神信仰**を基準にしておられます。

⇒「**ご褒美**」は、ただ信仰をもって主を受け入れた私たちを基準に、**神**がお与えになるのです。

⇒**SY師**は、**御子イエス・キリスト様**は、「わたしを遣わされた(40)」と、ご自身を**神の使徒**とされると仰せです。

⇒預言者、正しい者であると評価される私たちを「**神の使徒**」として、同労者として評価しておられるというのです。ここにも、**ヘセドの神**が、隠れて働いておられます。

⇒③「また(わたしの)弟子としてこの一人の小さな者に一杯の冷たい水でも飲ませる者は、アーメン、わたしは言う、(天にて)その褒美にもれることはない(42)」も、**神の愛**がより明確で、「**小さな者**」と、主は正直に仰せですが、これは、弟子たちのことを指すと同時に、主ご自身のことを示しておられるのです。**身を低くして仕えて下される姿**です。

⇒「**1杯の水を飲ませる者(42)**」を**SY師**は、家族を捨てて、主に従った弟子たちの使徒となったことへの主の家族・同労者として迎え入れた主の心配りです。教会は、**神の家族**です。

⇒**御子イエス・キリスト様**は、弟子たちへの①**神の愛**を評価基準とし、②**神信仰**を評価させ、③**神への奉仕**を弟子たちの姿の中に見せ、「**わたしを受け入れる人(40節)**」と、ご自身を受け入れる者の幸いをお示しです。

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。

◇本日の**マタイ10:40～42**は、「**わたしを受け入れる人(40節)**」と、**御子イエス・キリスト様**が、ご自身の弟子たちに語られたように、弟子として、如何に生きるかが問われています。

⇒年末礼拝の時、弟子とは、「**十字架を背負って主に従う者(38)**」であることに気づかせていただきました。

⇒「**わたしを受け入れる人(40節)**」と、「**神の御子イエス・キリスト様**」が、弟子の生き方そのものが、主に聴き従っているかどうかの基準となるということです。

⇒しかも、「**主を背中に負う**」のではなく、「**主に背負われている者の姿**」を見ていただくことが、主の弟子の役目で、「**十字架を背負う**」のも、「**主に罪ゆるされた恵み・福音**」です。

⇒**御子イエス・キリスト様**は、弟子たちへの①**神の愛**を評価基準とし、②**神信仰**を評価させ、③**神への奉仕**を弟子たちの姿の中に見せ、「**わたしを受け入れる人(40節)**」と、ご自身を受け入れる者の幸いをお示しです。

⇒「**十字架を背負って主に従う者(38)**」は、同時に**神の御子イエス・キリスト様**の働きの同労者でもあります。

⇒ヨヘネ5～8;塚本訳

- 5 愛する者よ、あなたがこれを兄弟たちに、しかも旅人に対してすることは、忠実に義務を果しているのである。
- 6 この人たちは(あちこちの)集会であなたの愛を証しした。あなたが、彼らを神に仕える者らしく(愛と献身とをもって)見送るのは、善いことをするのである。
- 7 というのは、彼らは(キリストの)御名のために(伝道に)出かけたので、異教人からは、なにも貰わないのである。
- 8 だからわたし達はこのような人々を、もてなす義務がある。わたし達も真理のために、共働者となるためである。